

日本童画の父 川上四郎記念

第20回
「越後湯沢全国童画展」

表彰式
交流会

期 日：平成28年3月5日(土)

会 場：湯沢町公民館

表彰式 … 11:00～ (2階 ホワイエ)

交流会 … 12:00～ (3階 会議室)

主 催 『越後湯沢全国童画展』実行委員会

新潟県南魚沼郡湯沢町

湯沢町教育委員会

***** 心にあふれる夢を描こう

表 彰 式

式次第

1. 開式
2. 主催者挨拶
3. 来賓挨拶
4. 表彰
5. 受賞者の言葉
6. 感謝状の贈呈
7. 感謝状受領者の言葉
8. 講評
9. 閉式

作品鑑賞会

受賞記念交流会

日本童画の父 川上四郎記念 第20回『越後湯沢全国童画展』

審査評

豊口 協（前 長岡造形大学理事長）

時は流れ時代は大きく動いている。この数年振り返ってみると世界中がいろいろな問題を抱えながらその姿を変え続けているように感じる。

その中で童画の持つ意味が改めて問われているようにも思えてならない。ある年は自然、ある年は公害、ある年はごみ問題など、その作品に対する影響は大きかったように思う。

今年1つの軸として考えられるのは、幼い子どもたちに対するやさしい思いやりの心である。将来を担う子どもたちの未来に平和を祈らない人はいないだろう。

大賞の「はじめてうそをついた日」心にぐさっと来るような幼き日の思い出が心よみがえる。孤独感に耐えながら歩もうとする子どもの姿。

最優秀賞「百子ひな車」幼な子の今、そして将来を祈るみんなの心。

絵に表現されたメッセージが楽しく喜ばしい。

優秀賞「約束の場所」動物と語りつづけた幼き日からの長い人生の旅。

美しくも清らかである。

奨励賞「キラキラ おめめ」本当に目が清らかで美しい。

「郷愁の道しるべ地蔵まつり」の祈りを込めた平和な明日への願い。

「空」本当に子供たちの平和な明日を祈りつづけたいと感動する。

村山 陽（挿絵画家）

絵は好き！きれい！で視る。好きな絵を見てくつろぐ。

自由であっていいのです。

現今の世情は戦争がくりひろげられつつある。日本はあぶない方へ展開だというように浮き足立って見える。

絵の世界に自分の世界がつけられるのだから、佳い風の流れる世界を自分流につくって皆で表現してみたいものです。

大賞「はじめて うそをついた日」野間さん。淡い淡彩の調子の中に深さがあって少女の心をしいんと感じとらせる画面を演じ、表現していて良い。

最優秀賞「百子ひな車」粕加屋さん。色彩のパンチがきいて構成も大小のリズムがあって明るい未来をも表現していて良い。

全体に若い人達にはげましの意味を込めて拍手した。

理念のTV界の映像を見ているといつの間にか、それに染まっていくようでしっとりとした映像ではなくなっている。それに染まらないように自分の奥深い調子の世界をこれから作り出して行ってほしい。

田村 実（元 福音館書店絵本編集長）

いつもながら、応募作品の質の高さに驚かされた。

今回はしっかり描かれている作品が多く、この童画展が定着したという印象を受けた。一方で、はじけるような輝きを放つ作品は少なかったように思う。

「童画」とは、何か？自分の描いている作品は「童画」なのか？という迷いもあるのかも知れない。

自分の中の「内なる子ども」に向けて、描いている作品が目立ったような気がする。ノスタルジーではなく、センチメンタリズムに陥ることもなく、観る人の心にしっかり届くような、そんな「童画」を期待したい。

大賞の「はじめてうそをついた日」は不思議な魅力のある作品である。「童画」の枠を広げていく可能性が感じられる。今後が楽しみな作家である。

最優秀賞の「百子のひな車」は、色彩感覚、デザイン感覚が面白く、楽しい作品。

優秀賞の「約束の場所」は木版画の驚くべき作品である。作者の思いが込められた画面に圧倒された。

川上四郎記念 第20回『越後湯沢全国童画展』受賞者一覧

大賞	はじめてうそをついた日	野間祥子	東京都
最優秀賞	百子ひな車	粕加屋伊ク代	東京都
優秀賞	「約束の場所」	北村依緒	京都府
奨励賞	キラキラ おめめ	小林容子	長野県
(3点)	郷愁の道しるべ地蔵まつり	近藤猛彦	新潟県新潟市
	空	佐々木ひとみ	茨城県
佳作	鳥追い	武田光弘	長野県
(5点)	おキツネさんの道しるべ	尾白かおる	兵庫県
	おかえり!	二代目喜一郎	大阪府
	リハーサル	内山泰介	新潟県三条市
	しばれのそら	今泉理恵子	北海道
入選	竹たたき奉納	桑原美佐子	新潟県魚沼市
(40点)	飛んでおいでよ	佐藤久美子	北海道
	かくれんぼ—ボクはここだよ—	吉永雅子	福岡県
	紅葉の中の散歩	鶴巻正美	東京都
	月男爵の海中訪問	宮沢さとみ	神奈川県
	希望の木	松島菜月	新潟県新潟市
	虫たちの丘	花巻庄司	青森県
	ぼたもち石積の夕日の決闘	木村千代春	新潟県新潟市
	風の追憶	上田圭一	埼玉県
	家族びより	永野宏三	福岡県
	「ドコカラキテ ドコヘユクノカ」	小川利雄	福島県
	ホオズキ市	踊由紀子	東京都
	夢を覗く少女	川崎麻由	大分県
	運動会	岡田祥子	千葉県
	かかしの豊作まつり	佐藤和	新潟県魚沼市
	見張り	小向得ちのぶ	兵庫県
	ねんねのお宿	岩野弘一	新潟県南魚沼市
	小さな宇宙飛行士たちの夢	近藤薫	新潟県新潟市
	夢—小さな逃亡者	高橋一彦	新潟県小千谷市
	夕日の空	岩瀬哲夫	神奈川県
	三猫娘 (さんにゃんこ)	半田さなえ	山梨県
	ひととき	押野見勝	新潟県見附市
	背比べ 天まで届け	森岡和美	東京都
	ゆっくり行こう (大移動)	鳥居雄三	京都府
	いつもいっしょ	木太裕美	香川県
	冬のシンフォニー	真柴水枝	大阪府
	たくさんの不思議	阪元沙耶香	兵庫県
	鬼の寝る間に・・・	村田夕海子	埼玉県
	春の女神 佐保姫	塚田清美	石川県
	311個のしゃぼんだま	木村文子	茨城県
	桜花爛漫	有吉礼音	千葉県
	窓辺	荒木紀子	新潟県新潟市
	知の池	中川彩	香川県
	あっ!	塩見アイ子	北海道
	あっぷっぷ	長谷川直也	神奈川県
	雨宿り	栖原あゆみ	兵庫県
	歩いてみたい	並村有華	京都府
	枯木に花をお手伝い。	中村勇人	大阪府
	健太君の忘れ物	深海孝子	新潟県燕市
	さようならの日	すずきすみこ	新潟県湯沢町

越後湯沢全国童画展歴代大賞作品

第1回	雪路	クレヨン	澤崎美和子	北海道
第2回	雨ノ中	アクリル	小林純子	神奈川県
第3回	旅の途中	アクリル	武田由紀	宮崎県
第4回	明日	油彩	片岡美男	山口県
第5回	大銀杏の下	水彩	五味仁	長野県
第6回	通り雨（シー）	油彩	井上正造	新潟県新発田市
第7回	「今日は穏やかね」「ほんとに」	日本画材	大迫古蓮	神奈川県
第8回	おうちはどこ？	油彩	鈴木眞	東京都
第9回	あっ雪だ	塩沢紬	町田須美恵	新潟県塩沢町
第10回	ひき語り	油彩	小向得ちのぶ	兵庫県
第11回	うれしい日	アクリル絵の具	尾崎要	京都府
第12回	発車のベルが鳴っている。	アクリル絵の具	小川利雄	福島県
第13回	楽しくつくる	日本画材	山本敦子	新潟県新潟市
第14回	おおきながようし	水彩	塩見アイ子	北海道
第15回	寒中げいこ	色鉛筆	松浦充人	三重県
第16回	龍華の雅	油性マジック	石井佳代子	愛知県
第17回	転校生	アクリル	井出三太	東京都
第18回	じゃんけんの行方	和紙ちぎり絵	森美恵	神奈川県
第19回	オープニング	透明水彩	内山泰介	新潟県三条市

日本童画の父 『川上 四郎』 作品

にゅうどうぐも	谷川とこども等
夕立	すずめおどし
河原の夏	かえろかえろ
学校がえり	はるかぜそよかぜ
おしくらまんじゅう	砂山 (1)
日なたぼっこ	砂山 (2)
谷川	お山の大将

大賞・最優秀賞・優秀賞 受賞作品

大賞

はじめてうそをついた日

野間 祥子（東京都）



最優秀賞

百子ひな車

粕加屋伊ク代（東京都）



優秀賞

「約束の場所」

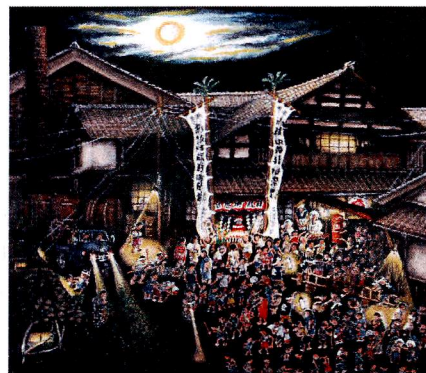
北村 依緒（京都府）



奨励賞・佳作 受賞作品



奨励賞 キラキラ おめめ
小林 容子 (長野県)



奨励賞 郷愁の道しるべ地蔵まつり
近藤 猛彦 (新潟県)



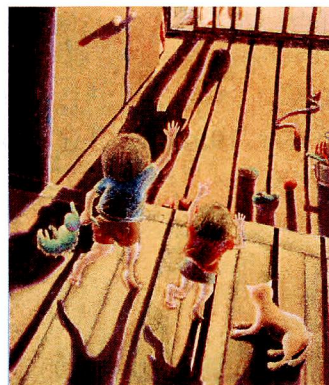
奨励賞 空
佐々木 ひとみ (茨城県)



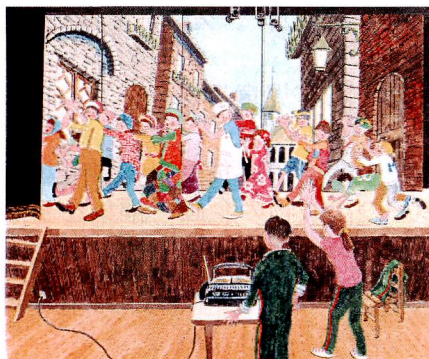
佳作 鳥追い
武田 光弘 (長野県)



佳作 おキツネさんの道しるべ
尾白 かおる (兵庫県)



佳作 おかえり!
二代目 喜一郎 (大阪府)



佳作 リハーサル
内山 泰介 (新潟県)



佳作 しばれのそら
今泉 理恵子 (北海道)

審査員のご紹介

豊口 協（第1回展より審査員）

千葉大学工学部工業意匠学科 卒業

松下電器産業株式会社、株式会社豊口デザイン研究所を経て、1984年から1992年まで東京造形大学学長、1994年より長岡造形大学学長、1999年より同理事長として活躍、長岡造形大学の公立大学法人化を済ませ、2014年8月退任する。

東京造形大学名誉教授、長岡造形大学名誉教授のほか、

中国 無錫輕工大学（現 江南大学）名誉教授、

韓国 東西大学名誉博士等、海外でもご活躍。

専門分野は工業デザイン、

社団法人商業施設技術者・団体連合会顧問、グッドデザイン賞審議委員会委員長等、

官民学にわたり委員会委員など役職多数を歴任。

2009年春の叙勲において、多年にわたり私学振興に貢献された功績により、「文部科学省旭日中綬章」を受章。

村山 陽（第12回展より審査員）

新潟大学教育学部藝能学科絵画科 卒業

一水会委員、日展会友、新潟県美術家連盟参事、県展参与

小出高校、高田高校、長岡高校、高田工業高校美術教諭として指導に当たり、定年退職する。その間、児童文学作家杉きみ子氏の「火をありがとう」（童心社）、「しろいセーターのおとこの子」（金の星社）、全国課題図書。「朝やけまつり」（童心社）、「詩画集風のよそおい」（北越出版）、詩の絵本「白い花のさく木」（金の星社）ほか挿画多数担当する。

1952年より一水会展出品、以後、出品を続ける。一水会賞、一水会会員佳作賞6回を経て、2011年「描く」を描く」で一水会優賞を受賞。1975年アテネ、ローマ、スペイン、ロンドンとスケッチ旅行、1992年より連続5回北海道東西南北を描く旅、1996年スイススケッチの旅、1993年～1996年「ワールドカップを新潟に」ポスター制作、2010年「レルヒ百年祭ポスター」原画作成など。

田村 実（第18回展より審査員）

早稲田大学政治経済学部経済学科 卒業

児童書出版社の福音館書店に入社。編集部海外・著作権室に所属し、主に海外の出版社との翻訳権の売買の交渉にあたる。ボローニャ、フランクフルトなどのブックフェアに毎年参加し、海外の編集者、絵本作家などと交流を深める。

その後、同社、編集部絵本・童話セクションにて、編集者として児童書の単行本の企画・編集に携わる。

同セクションの編集長を経て、1997年より編集部絵本セクションの編集長を10年以上務める。

その間、絵本（創作、翻訳）、幼年童話を中心に、数多くの出版物の企画・編集を手掛ける。

2008年に福音館書店退社。

現在は、タムラ堂を主宰し、独自の観点から、絵本を中心とした出版活動等を行っている。

湯沢町童画の取り組み

- ・平成5年10月湯沢町公民館において「日本童画の父 川上四郎展～よみがえる雪国のふるさと湯沢」を開催。川上四郎作品約100点の展示と作品集を刊行 期間中の来場者、5,219人。
- ・越後湯沢全国童画展開催に向け、越後湯沢童画展実行委員会を組織する。
童画展実行委員長には村山禧家さん、副実行委員に剣持越峰さん、樋口令子さん、実行委員に桑原勝一さん、鈴木スミ子さん、高橋貞良さん、高橋正明さん、田村キヨシさん、田村迪雄さん、南雲英二さん、南雲和夫さん、南雲文子さん、丸井恵美子さんでスタート。
審査員は、当時長岡造形大学の学長 豊口協さん、当時現代童画会副会長 久保雅勇さん、当時県立近代美術館副館長 親跡峻さんの3人。
- ・平成8年度 記念すべき「越後湯沢全国童画展」の第1回展を開催、応募総数 170点。川上四郎記念大賞1点、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作10点、入選が50点、計63点を選出
- ・平成9年度 第2回展 応募総数327点、大賞以下66点を選出。
- ・平成10年度 第3回展 応募総数349点、大賞以下68点を選出。
第1回展から第3回展までの入賞、入選作品を掲載した作品集を刊行。
- ・平成11年度 第4回展 応募総数408点、大賞以下68点を選出。
この年から、湯沢高原アルプの里 レストランサントピア「雲の上の美術館」および「県庁ギャラリー」にて作品展を開催。
- ・平成12年度 第5回展 応募総数402点、大賞以下68点を選出。
この年からロープウェー事業所と共催で、表参道新潟館・ネスパスにおいて「越後湯沢全国童画展とアルプの里写真展」を開催。「雲の上の美術館」、「県庁ギャラリー」でも展示。
- ・平成13年度 第6回展 応募総数400点、大賞以下68点を選出。
「越後湯沢全国童画展とアルプの里写真展」、「雲の上の美術館」、「県庁ギャラリー」で展示。
第4回展から第6展までの入賞入選作品を掲載した作品集を刊行。
- ・平成14年度 第7回展 応募総数611点、大賞以下68点を選出。
11月イルフ童画館において、「川上四郎展」開催。
- ・平成15年度 第8回展 応募総数442点、大賞以下68点を選出。
- ・平成16年度 第9回展 応募総数345点、大賞以下68点を選出。
大賞に旧塩沢町在住の町田須美恵さんの作品「あつ雪だ」を選出。優秀賞に湯沢町在住のペンネームいせあらたさんを選出。
第7回展から第9展までの入賞入選作品を掲載した作品集を刊行。
- ・平成17年度 第10回展 応募総数281点、応募者数235人、大賞以下68点を選出。
12月「越後湯沢全国童画展」の10周年を記念して、「特別秀作展」を湯沢町公民館で開催。
18年1月、長岡市制100周年・合併記念「あそび・ゆめ・越後湯沢全国童画秀作展」に童画展作品100点を展示。
- ・平成18年度 第11回展 応募総数254点、応募者数205人、大賞以下67点を選出。
「宿場の湯わらべの詩」に童画常設展を開設。また、「雲の上の美術館」、「役場」、「小中学校」、「保健医療センター」に童画を常設展示。8月、たからやビル等で特別展示会を開催。

・平成19年度 第12回展 応募総数249点、応募者数210人、大賞以下59点を選出。
町内常設展示のほか、新潟ふるさと村で童画展を開催。
第7回展から第9展までの入賞入選作品を掲載した作品集を刊行。

・平成20年度 第13回展 応募総数236点、応募者数190人、大賞以下58点を選出。
7月新潟市で「越後の自然と子どもを愛した童画家・川上四郎展」開催。
町内常設展示、新潟ふるさと村で童画展を開催。

平成20年、21年度にかけて童画のまちづくり検討委員会を設置し、検討を行う。報告書では、童画の拠点となる施設、川上四郎作品の活用、全国童画展の継続、児童、生徒、町民への啓発について提言。

・平成21年度 第14回展 応募総数225点、応募者数185人、大賞以下66点を選出。
町内常設展示場所に旅館ホテルが加わる。新潟ふるさと村で童画展を開催。

・平成22年度 第15回展 応募総数195点、応募者数163人、大賞以下48点を選出。
第15回作品展は記念展として開催。
第13回展から第15展までの入賞入選作品を掲載した作品集を刊行。
川上四郎作品の復彩画127点を作成。

・平成23年度 第16回展 応募総数204点、応募者数164人、川上四郎記念大賞1点、最優秀賞1点、優秀賞1点、奨励賞3点、佳作5点と奨励賞を2点、佳作を5点減らし、その分の賞金を大賞に上乘せ30万円から50万円に増額する。大賞以下51点を選出。
童画の町づくり検討委員会報告書に基づき、川上四郎作品の絵はがきを作成。

・平成24年度 第17回展 応募総数260点、応募者数212人、大賞以下51点を選出。
10月、二居宿場の湯に川上四郎原画常設展を開設。新潟ふるさと村で童画展を開催、池田記念美術館で「越後湯沢全国童画展 優秀作品展」を開催。

・平成25年度 第18回展 応募総数287点、応募者数226人、大賞以下51点を選出。
第16回展から第18展までの入賞入選作品、パリ特別展展示作品を掲載した作品集を刊行。
出雲崎町で川上四郎「良寛さ」復彩画24点の展示。新潟ふるさと村で童画展を開催。

・平成26年度 第19回展 応募総数299点、応募者数244人、大賞以下51点を選出。
フランスパリ日本文化会館で「雪国 越後湯沢童画展」を開催、期間中10,149人が来場。
国内凱旋展として、東京表参道 新潟館・ネスパス、湯沢町公民館、新潟ふるさと村の3会場で開催。

・平成27年度 第20回展 応募総数203点、応募者数161人、大賞以下51点を選出。
平成27年度 7月、新潟日報メディアシップにて越後湯沢全国童画展20周年記念展を開催。
9月 湯沢町公民館で巡回ミュージアム・越後湯沢全国童画展20周年記念展を開催。
11月 新潟ふるさと村で越後湯沢全国童画展20周年記念展を開催。
3月 第20回越後湯沢童画展表彰式、感謝状贈呈式、作品展を開催。

以上、第20回展まで応募総数6,147点、応募者延べ人数5,649人、応募者実人数3,226人、川上四郎記念大賞20点、最優秀賞20点、優秀賞20点、特別賞3点、奨励賞80点、佳作175点、入選908点、計1,226点。
受賞作品の中から775点が湯沢町に寄贈されています。

< 後援各社 >

新潟日報社・BSN新潟放送・NST・TeNYテレビ新潟

UX新潟テレビ21・FMゆきぐに

< 主 催 >

『越後湯沢全国童画展』実行委員会

湯 沢 町・湯沢町教育委員会

***** 心にあふれる夢を描こう